

鳥海中学校校歌

作詞作曲 豊島重孝

一 鳥海の峰 空に映え
 けだかき姿 わが誇り
 縄文の丘 つつじ咲き出で
 歴史を胸に よらこび学が
 すこやかに すこやかに

英知を磨き

ああ 鳥海中学校 理想に燃える

二 若鮎躍る 子吉川
 清き流れぞ わが鏡
 勤労の日々 汗さわやかに
 大地の恵み 永久に忘れじ
 たくましく たくましく
 体を鍛え

ああ 鳥海中学校 誇りと輝く
 三 ぶなの林の やまどりは
 希望はばたく わが未来
 文化薫りて のびゆく町の
 夢語り合ひ 友情の和よ
 うつくしく うつくしく
 心一つに

ああ 鳥海中学校 明日を拓く

校歌作曲にあたって

校歌作詞・作曲者 豊島重孝



平 成十年四月、鳥海

中学校誕生の二年前、鳥海町教育委員会から校歌の作詞、作曲の依頼があった。非常に光栄に思うとともに、郷里鳥海中学校の生

徒のため、立派な校歌を創ろうと決心した。

私は、生徒像として「すこやかに」「たくましく」「美しい心」を持った生徒であってほしいと思った。また、鳥海町の誇りである「鳥海山」「子吉川」、そして町のシンボルである町の木「ブナ」、町の花「ツツジ」、町の鳥「やまどり」も詩に織り込み、郷土に誇りを持つ鳥海中学校生徒であってほしいと願って作詞した。

現在、若者たちに愛されているニューミュージックは、

鳥海中学校校歌

作詞・作曲 豊島重孝

Allegretto
 mp
 ちょうかいのみねそらには
 えげだかきすがたわがほこ
 りじょうもんのおかつつじさきいで
 れししをむねによるこびまなぶすこやかに
 すこやかにえいちをみがきああ
 mf
 ちょうかいちゅうがっこうりそうにもえる

大抵自由詩に作曲されたものが多く、そのため詩が冗漫になり、リズムは華やかだが、メロディーの貧弱なものが多い。また、歌詞のアクセントや、言葉のまとまりを無視した曲が多く、歌いにくく、聴いていても歌詞のはつきりしない曲が多い。

それは、メロディーが先に作曲され、それに歌詞を当てはめていく作曲方法に起因しているようだ。

そこで、鳥海中学校の校歌の作曲にあたっては、日本古来の七五調、七七調を主体にし、格調の高さと現代の生徒の好む、軽快でリズムカルな詞と曲を作り、詞と曲の一体感のある歌いやすい曲にしたいと努力した。

歌は人に歌われることにより、その生命を保つ。どんな名曲でも、人に歌われなければ、名曲にはなり得ない。鳥海中学校の校歌が、学校のシンボルとして、学校行事においても、学級でも生徒会でも常に生徒と共にあり、また卒業しても、鳥海中学校と共に、生徒の心に生き続ける校歌でありたいと願っている。